１．平成１６年度概算要求の基本方針

○国土交通省では、平成16年度概算要求にあたって、「経済財政運営と構造改革の基本方針2003」で掲げられた**「重点４分野」**

・人間力の向上・発揮 ― 教育・文化、科学技術、ＩＴ
・個性と工夫に満ちた魅力ある都市と地方
・公平で安心な高齢化社会・少子化対策
・循環型社会の構築・地球環境問題への対応

への施策の集中など、重点化・効率化の取組みを具体化し、経済活性化・構造改革を促進することとしています。

【概算要求のポイント】

１．重点４分野への重点化
２．社会資本整備重点計画策定を踏まえた成果重視の施策展開
３．三位一体の改革（国庫補助負担金制度の改革）の推進
４．特殊法人等改革の推進
５．効果的な事業実施による経済活性化の促進

○東北地方整備局では、「重点４分野」などを踏まえ、地方が持つ潜在的な力を開花させ「元気な日本経済」を支える個性と魅力ある「元気な地方」を実現するため、東北地方における「真に必要な社会資本」について、戦略的・重点的な事業の実施を図りながら、これまでに引き続き、

「強く美しい東北」を目指し、
１．強い東北の創造
２．安全で安心できる地域づくり
３．魅力ある都市づくり
４．美しい東北の実現

など『東北に暮らす人々の願い』や『誇りと生き甲斐を感じながら生活を営む地域』を実現するため、地域の皆様と一緒に考え、効率的・効果的な事業の実施を図ります。

○また、東北地方における

「総合的な行政機関としての展開」

として、民間需要や雇用創出の効果などを重視し、国直轄事業と補助事業の連携等による総合的な社会資本整備を推進するため、

①「地域経済活性化のための事業の重点的実施」

②「多様な政策手段による連携施策の本格的実施」

を積極的に展開することとします。

○さらには、地域の主体的な取り組みや創意工夫を生かした事業、公共事業に関するコスト縮減や透明性の向上に向けた取り組みを重視するなど、

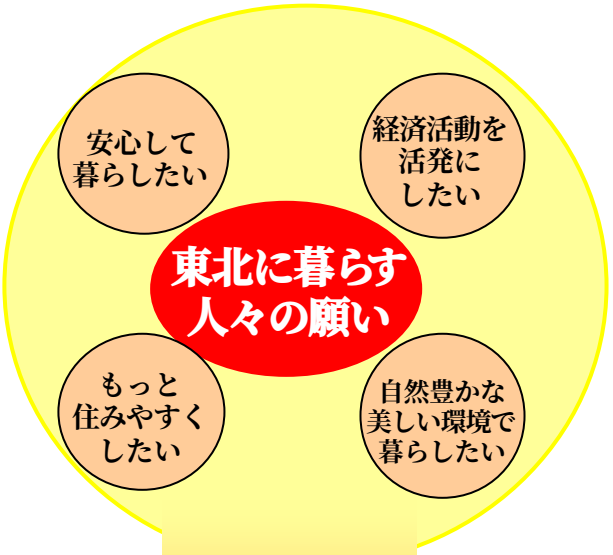
③「地域との対話を重視」

することにより地域と連携した社会資本整備を積極的に展開することとします。

２ 平成16年度 概算要求のポイント

［東北の強み
・ポテンシャル］

- 美しい自然と豊かな水・人々の心を癒す大地
- 多様な風土，人情豊かなｺﾐｭﾆﾃｨ
- 東アジア，北米西岸への近接性
- 研究開発型産業立地
- 新たな発展の可能性のある農業や地場産業の存在



［課題の解決へ
向けて］

- 人口の流出，全国に先駆けて進む高齢化
- 自然災害の多発，雪による障害
- 都市の活力低下，中山間地域問題の深刻化
- グローバル化に伴う地域への影響の増大

誇りと生き甲斐を感じながら生活を営む地域の実現に向けて

（地域づくりの目標）

「強く美しい東北」を目指す

（主要事項）

強い東北の創造

- ○ 物流の効率化や人と情報の交流・連携
- ○ グローバル化の促進
- ○ 民間需要への波及・雇用の創出

安全で安心できる地域づくり

- ○ 雪に強く、安全・安心・快適に暮らせる地域の実現
- ○ 災害を最小限に止めるハード・ソフト対策
- ○ ユニバーサルデザインの推進

魅力ある都市づくり

- ○ コンパクトシティの形成
- ○ 魅力ある都市機能・空間づくり
- ○ 災害に強い都市の構築

美しい東北の実現

- ○ 循環型社会の構築・クリーンエネルギーの活用
- ○ 良好な環境の保全
- ○ 個性豊かな地域の創造

総合的な行政機関としての展開

地域経済活性化のための事業の重点的実施

多様な政策手段による連携施策等の本格的実施

地域との対話を重視

強い東北の創造

○物流の効率化や人と情報の交流・連携

○グローバル化の促進

○民間需要への波及・雇用の創出

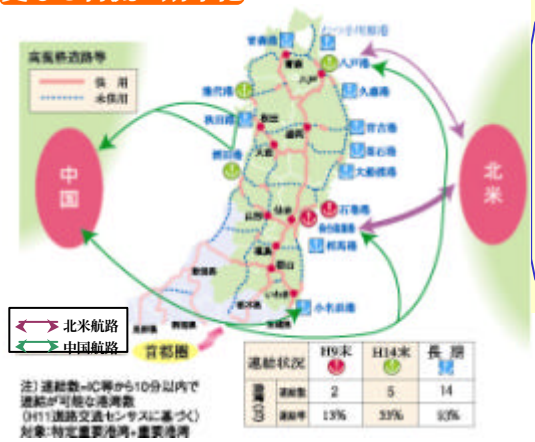
国際物流ターミナルの整備や、高速道路などの幹線道路との連結により物流コストが低減されます

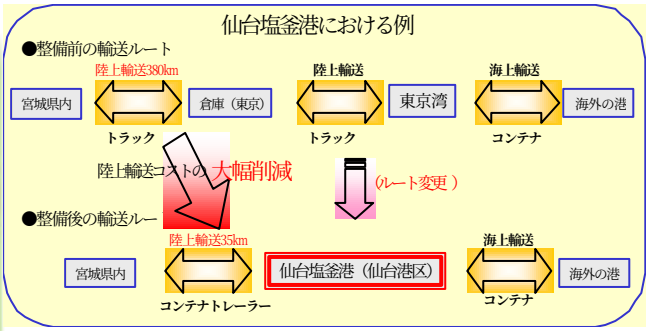
港湾整備と幹線道路の連結強化

東北の港湾活用による物流コストの削減

東北の港湾でのコンテナ貨物取扱い率を増大 現状2割→目標5割）

更なる物流の効率化





荷物が翌朝10時まで届く範囲が広がります

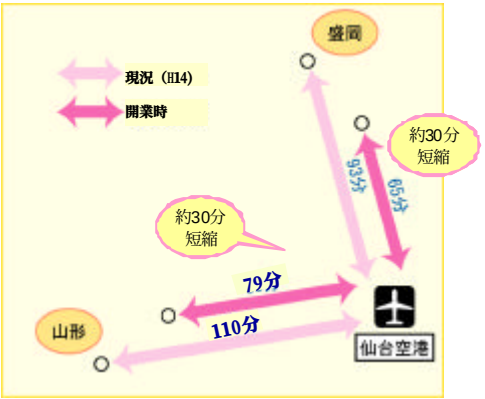
●磐越自動車道全線開通による効果



▲翌朝１０時時間指定配送圏域の拡大
南東北３県（宮城県、山形県、福島県）翌朝１０時配送可能圏］

国際線の利用が他県からも便利になります

●仙台空港へのアクセス時間＜電車利用＞
（将来：仙台空港線利用）



●仙台空港線整備による時間短縮効果
［仙台駅～仙台空港駅間(仮称)］



安全で安心できる地域づくり

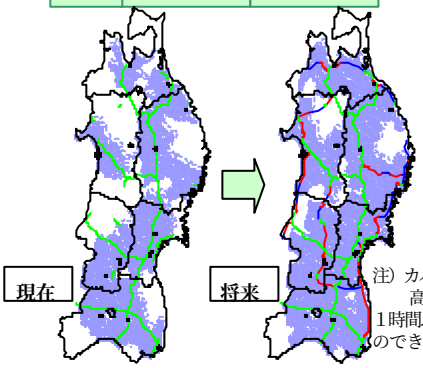
○雪に強く、安全・安心・快適に暮らせる地域の実現

○災害を最小限に止めるハード・ソフト対策

○ユニバーサルデザインの推進

命のたすかる人が増えます

	現在(H14末)	将来
カバー率	約75%	約90%



注）カバー率
高次医療施設へ1時間以内で行くことのできる人口の割合

高規格幹線道路等	現在	
	将来	
60分カバー圏		
高次(三次)救急医療施設		●

注）高次救急医療施設
高度な治療施設・技術を持つ病院

洪水の被害を軽減し、安心できる地域をつくります

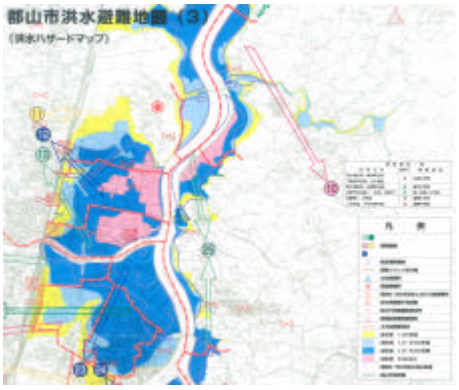


福島水位観測所（最高水位：m）		規　模
H10年	5.43	戦後2番目
H14年	5.27	戦後3番目

阿武隈川平成の大改修の効果
浸水面積(ha)：1,846→957
浸水戸数(戸)：1,917→895

災害に対する不安を軽減します

●河川防災ステーションの整備を進めるとともに、ハザードマップなどのソフト対策を行います。



洪水ハザードマップ



郡山河川防災ステーション

津波から住民の生命と財産を守ります



昭和8年（1933）（3月3日）　三陸地震津波倒壊した家財に埋もれた釜石桟橋付近



釜石港　湾口防波堤

冬期でも安全 快適な歩行空間を確保します

●無散水消融雪施設の整備により、安全で快適な歩道を確保します。
（青森市役所前）



◆歩道もバス停も雪で埋まり、歩道幅員が減少



◆安心してバスの乗り降りができ、生活環境の改善が図られます。

魅力ある都市づくり

○コンパクトシティの形成

○魅力ある都市機能・空間づくり

○災害に強い都市の構築

街なか居住により、各種施設が利用しやすくなります



市街地再開発事業：いわき市平一丁目

・通勤時間が短くなります
・病院、図書館などが利用しやすくなります
・バス、鉄道などが利用しやすくなります
・街のにぎわいが楽しめます

安全で快適な人優先のみちへ再生します

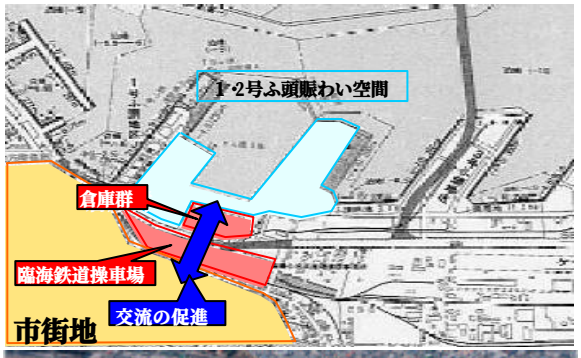
歩行者優先の「くらしのみちゾーン」を形成します
公安委員会と連携し
・事故危険箇所の削減
・「あんしん歩行エリア」の形成　に取り組みます

●「くらしみちゾーン」のイメージ



魅力あるみなとまちづくりを進めます

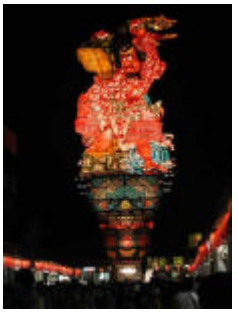
●市街地整備と連携した魅力あるみなとまちづくり





電線類地中化が祭りを支えます

【事例：立佞武多（たちねぷた）、青森県五所川原市】

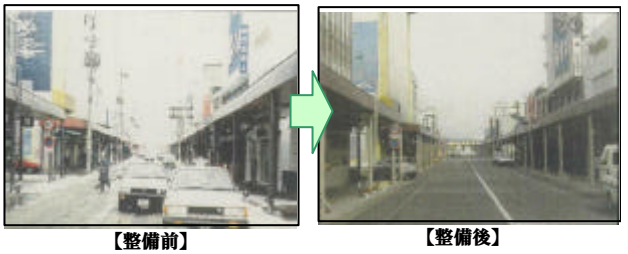


高さ２０mを越える
巨大「ねぷた」がまちを移動

・電線が障害となり
大正のはじめに祭りは消滅

・しかし、電線類の地中化など
により祭りが復活

電線類地中化前後の様子



【整備前】　【整備後】

※新たな「電線類地中化計画」（H16～H20目途）に基づき整備を実施

美しい東北の実現

○循環型社会の構築・クリーンエネルギーの活用

○良好な環境の保全

○個性豊かな地域の創造

環境配慮型官庁施設(ｸﾞﾘｰﾝ庁舎)を整備します

グリーン庁舎の５つの柱

・周辺環境への配慮 ・省エネ、省資源

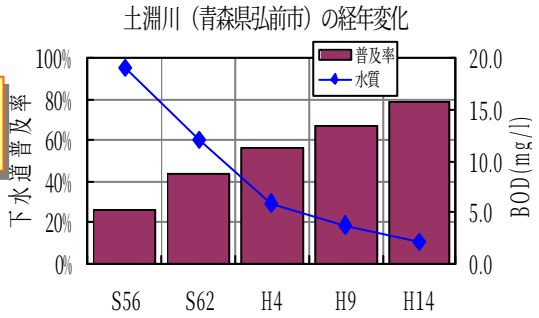
・長寿命 ・エコマテリアル

・建設副産物の再利用と適正処理



東北地方における初めてのグリーン庁舎（本荘地方合同庁舎外観図）

川の水がきれいになります



下水道を整備することにより、河川の水質が改善します。

川の流れがよみがえります

●魚類等の生息環境の保全等、健全な水循環系の構築を図ります。



最上川水系寒河江川
（寒河江ダム直下流）

周辺環境との調和

●優れた景観地区等へ景観に配慮した防護策を整備



岩手県　一般国道45号 織笠地区

循環型社会構築に資する静脈物流拠点の形成

●リサイクル産業の展開に対応した広域的な静脈物流の拠点の形成に、官民が連携して取り組みます。



※平成１５年4月 総合静脈物流拠点（ﾘｻｲｸﾙﾎﾟｰﾄ）に東北管内で八戸港、釜石港、酒田港を指定

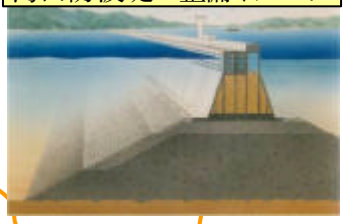
総合的な行政機関としての展開

●来たるべき宮城県沖地震に備え、地域住民の安全を確保

・地震、津波被害を最小限にし、また、被災時の緊急物資輸送拠点及び代替輸送ルートを確保し、被災後の復旧を支援

岩手、宮城沿岸部）

湾口防波堤　整備イメージ



耐震強化岸壁　整備イメージ



N

至　青森↑　東北自動車道

4

45

1

2

3、4

仙人峠道路

岩手県

釜石港
・湾口防波堤の整備
・耐震強化岸壁の整備

国道45号等の代替えルート
（三陸縦貫自動車道）

低地対策河川事業
（高潮対策事業）
①津軽石川　②織笠川　③大槌川
④小鎚川　⑤鹿折川



▲防潮水門等の整備
（津軽石川）

鳴瀬川中流緊急対策事業



▲宮城県北部を震源とする連続地震で被災した堤防

大船渡港
津波・高潮防災ステーションの整備

5

三陸縦貫自動車道
石巻河南IC～河北IC間
（H15部分暫定供用）



4

45

宮城県

108

交流ふれあいトンネル・橋梁整備事業

・宮城県北部を震源とする連続地震(7/26)の際、町の孤立化を回避
・地震後、石巻市内の病院へ患者を搬送、風越道路がなければ未改良道路を２倍の時間をかけて迂回



▲旧道の寸断

仙台塩釜港
津波・高潮対策のため胸壁の整備

石巻港

仙台東部共同溝　整備イメージ



▲道路を塞ぐ電柱の倒壊



▲(主)石巻鮎川線風越道路

●上下流一体となった
安全で快適な河川空間の創造

洪水から生命・財産を守り、安全な生活基盤の確立を図るため、宮城・福島両県を流下している阿武隈川において、上下流一体となった治水対策を実施。

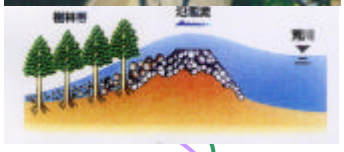
（宮城県、福島県）

多目的ダム建設事業　摺上川ダム
H16試験湛水（P40掲載）

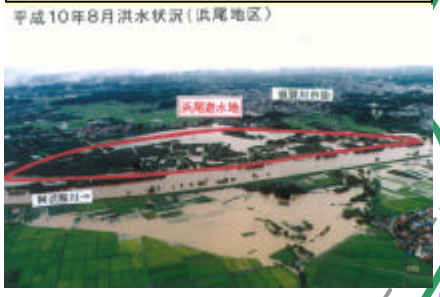


一般改修事業
荒川樹林帯



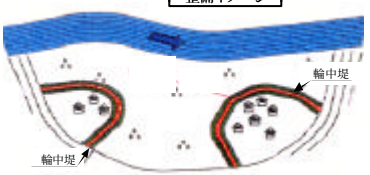


床上浸水対策特別緊急事業
浜尾遊水地
H16完成（P42掲載）

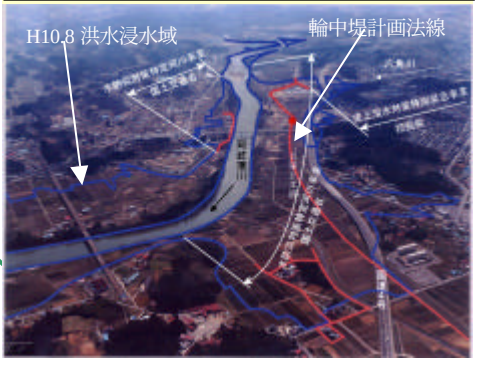


水防災対策特定河川事業
丸森・梁川地区





水防災対策特定河川事業
二本松・安達地区



1) 地域経済活性化のための事業の重点的実施

●人・産業・文化のフロンティア都市「八戸」を支援する物流・交通インフラ整備

•北東北随一の工業集積地「八戸」の地域経済を支える産業を支援するため、陸、海をはじめとするネットワークの構築

（青森県八戸市）



八戸新幹線「はやて」


▲事業が進む八戸久慈自動車道（八戸南環状道路）


▲八戸駅全景


▲八戸港全景

●歴史を活かした、安全で快適な空間の創造を支援

・世界的な歴史・文化遺産を有する岩手南部地域において、観光を基幹とする地域の、経済活性化を支援する事業を重点的に実施

（岩手県平泉周辺）

国道４号
平泉バイパス
兼用堤防整備



水辺プラザ（水沢）

JR東北本線衣川
鉄道橋改築事業
H15新規着手

一関遊水地事業



（補助）
砂鉄川河川等災害
関連事業
H16完成
砂鉄川河川激甚
災害対策特別
緊急事業
H18完成

（直轄）
砂鉄川床上浸水
対策特別緊急事業
H16完成（P39掲載）
砂鉄川災害復旧等
関連緊急事業
H17完成



▲H14.7台風6号による浸水状況（東山町：砂鉄川関連）

（補助）
都市計画道路
毛越寺線

国道４号
電線共同溝

水辺プラザ（一関）

国道２８４号
薄衣バイパス
H15全線完成供用

水辺プラザ（川崎）

中尊寺
金色堂
柳之御所
毛越寺
厳美渓
猊鼻渓

衣川村
平泉町
前沢町
水沢市
江刺市
大東町
東山町
川崎村
一関市

北上川
砂鉄川
JR東北本線
東北新幹線
衣川
至青森
至東京
東北縦貫自動車道
至東京
岩手県
宮城県

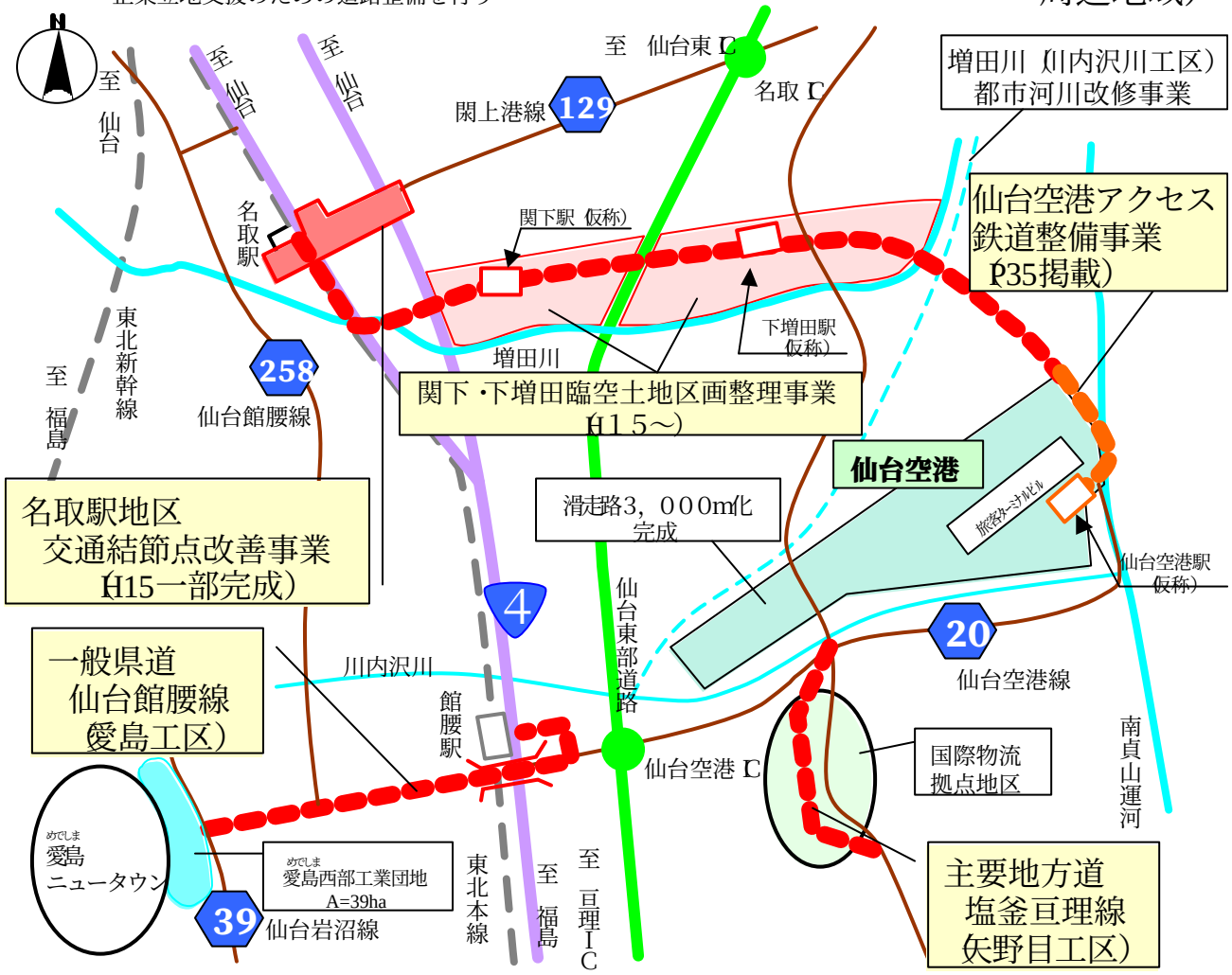
4
343
456
342
284

2) 多様な政策手段による連携施策等の本格的実施

●国際交流拠点の形成に向け 空路と陸路の連結機能を強化

•仙台空港を核とした国際交流・物流・情報の拠点となる臨空都市形成を図るため、仙台空港アクセス鉄道の整備や鉄道沿線の土地区画整理、また、流通団地への企業立地支援のための道路整備を行う

（宮城県仙台空港周辺地域）




工事が進む名取駅（東口）



●国、県、町、地域が一体となった治水対策

(岩手県東山町)

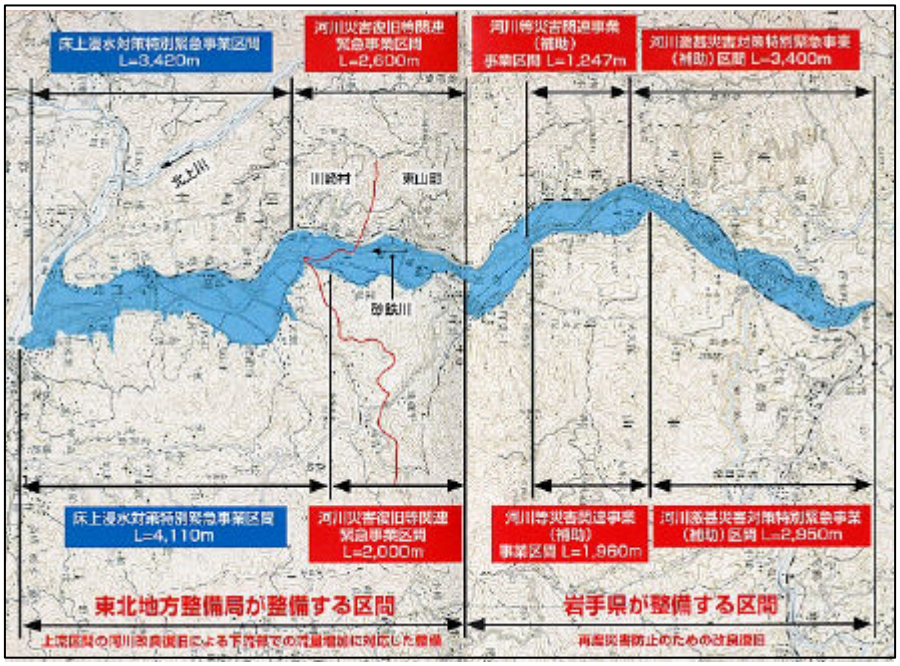
平成14年7月10日未明から猛威をふるった台風６号、停滞していた梅雨前線の活発化に伴い、岩手県全域に大雨をもたらし、特に、砂鉄川流域においては、砂鉄川、支川山谷川、猿沢川が氾濫し、床上浸水743戸、床下浸水222戸、浸水面積529haの大きな災害をもたらしました。（戦後３番目に高い水位を記録）

この激甚な災害に対して、砂鉄川猊鼻渓下流部に位置する岩手県知事管理区間において、河川激甚災害対策特別緊急事業、激特事業の下流において河川等災害関連事業及びその下流部直轄管理区間において、河川災害復旧等関連緊急事業を平成14年度から実施しています。

これら砂鉄川緊急治水対策は、東北地方整備局、岩手県、自治体と一体的に連携して、集中的に上下流一貫とした治水対策を進めることにより、同規模の洪水が再来しても、砂鉄川からの氾濫による浸水等を解消し、再度災害の防止を図り、国土の保全と民生の安定に資するものです。



砂鉄川緊急治水対策　－国・県・自治体が『連携』－










浸水により路上に残された車


町地区の浸水状況




救助活動


猊鼻渓付近の浸水状況





3) 地域との対話の重視

●地域との対話を重視した取り組み

・地元住民はもとより、様々な分野の方々と一緒に地域の活動・交流を支援

●東北地方戦略懇談会

構成員：東北６県知事、仙台市長、地元経済界の代表、国土交通省地方支部部局長、他省地方支分部局長
時　期：平成１５年７月５日
内　容：東北地方における広域的視点に立ち、地域の将来像を共有しながらブロック戦略などについて政策の提案や事業実施のための意志疎通を図る意見交換を行った。





●ロード・セーフティステーション

東北地方整備局では、国道に点在しているコンビニエンスストアを道路の情報拠点として、道路利用者からの情報提供並びに道路状況を提供していただく仕組みとして「ロード・セーフティステーション」制度を創設。





●バリアフリーワークショップの開催

官公庁施設のより高度なバリアフリー整備を実施するにあたり、近隣在住の高齢者、身障者及び介護関係者の方々から意見をいただき、全ての方々に優しい庁舎の実現を目指します。



▲十和田地方合同庁舎（イメージ）



▲十和田地方合同庁舎ワークショップの開催状況

○十和田地方合同庁舎でのワークショップ実施例
第1回　平成１５年4月１６日
第2回　平成１５年6月２６日

●北上川流域連携協議会

北上川を軸とし、河川海岸清掃、環境教育、子供交流会等を実施し、県境を越えた地域づくりや人づくりを支援。



▲子供交流会の状況



▲河川海岸清掃状況

●地域と一体となった交流拠点の整備

吸川（すいかわ）統合河川整備事業（岩手県一関市）

吸川（すいかわ）は、一関市街地を流下しており、生活雑排水等により汚染が著しく、魚類の生息も見られず悪臭が漂っている状況ですが、一関市では周辺地域を下水道計画に組み入れたことにより、今後、水質の改善が期待できる状況です。また、平成16年３月の一ノ関駅東口開設に伴い、乗降客が吸川周辺に集中するものと予想され、並びに、沿川には住宅や小中学校があり、周辺住民や市民からも改善要望が出されています。

本事業は、悪臭の原因となっている河道堆積土砂の除去を図り、既設の護岸を周辺環境に配慮して再生し、さらに遊歩道や憩いの空間などまちづくり事業及び一般の方々をはじめ、中学生、小学生を対象としたワークショップを開催し、地域の方々と一体となった整備計画を進めることにより、良好な河川空間利用整備を図るものです。





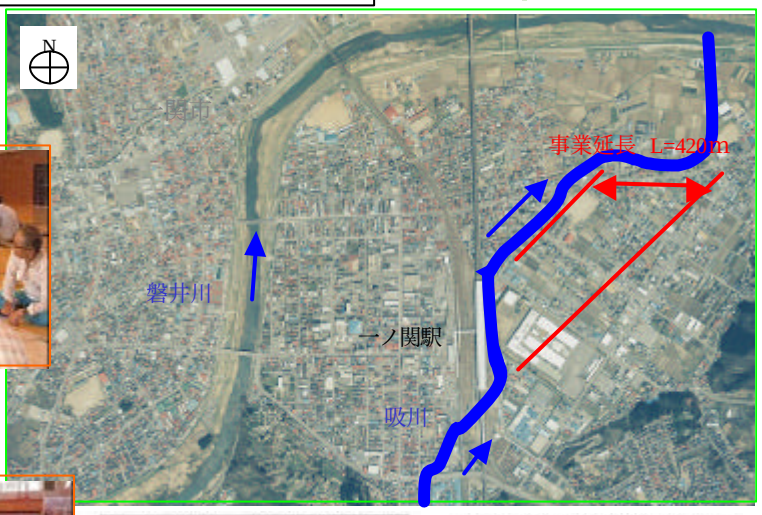
一般の方々を対象としたWS



中学生WS



小学生WS





整備ｲﾒｰｼﾞ図

